事　　項	トルコギキョウにおける根腐病の特徴
ね　ら　い	平成27年に県内のトルコギキョウでしおれ症状を示す株が農林総合研究所に持ち込まれた。病原を調査した結果、本県において初確認となる「トルコギキョウ根腐病」によるものであることが明らかとなったので、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。
指導参考内容	1　発生状況 発生地点：津軽地域１地点１農家圃場 作型：無加温ハウス栽培（10月下旬定植） 時期：４月中旬 品種：「ボンボヤージュホワイト」他２品種 発生割合：10～30％ 2　病　徴 地上部は、茎葉が緑色のまましおれ（写真１、写真３上）、株全体に及ぶと枯死する場合もある。しおれから回復した場合でも生育が大幅に遅れるため（写真２）、切り花品質が劣る。 地下部は根の先端から褐変腐敗し、根量が少ない（写真３下、写真４）。 症状は立枯病に類似し、外観だけでの識別は困難であるが、土壌が多湿条件で、春または秋の冷涼な時期に発生が多い傾向がある。また、根腐病では罹病根を顕微鏡観察すると、*Pythium* 属菌特有の卵胞子が観察される（写真５）。褐色根腐病の場合は、急激に地上部全体がしおれることはなく、根の褐変程度が強い。 3　病原菌 病斑部から分離した菌について、培養菌糸による土壌混和接種、卵胞子等形態の観察、遺伝子塩基配列の比較を行った結果、病原菌 *Pythium　spinosum* による「トルコギキョウ根腐病」と同定された。この菌は土壌伝染性の病原菌であるため、被害植物残渣とともに土壌中に残り、寄主植物の栽培にともなって胞子が発芽し、根部から感染する。 4　防除対策 (1) 圃場の排水を良好にして灌水をひかえめにする。 (2) 被害株は早急に抜き取り、作物を植えない場所に埋める等適正に処分する。 (3) 機械作業等による汚染土壌の移動を防ぐ。 (4) 発病圃場で使用した資材は、廃棄するか丁寧に土を洗い落とす。 (5) 登録のある薬剤により土壌消毒を行う。
期待される効　　果	トルコギキョウにおける根腐病の原因と特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。
利用上の注意事項	
問い合わせ先（電話番号）	農林総合研究所　病虫部（0172-52-4314）　　対象地域：県下全域
発表文献等	平成27年度　試験成績概要集（農林総合研究所）

【根拠となった主要な試験結果】

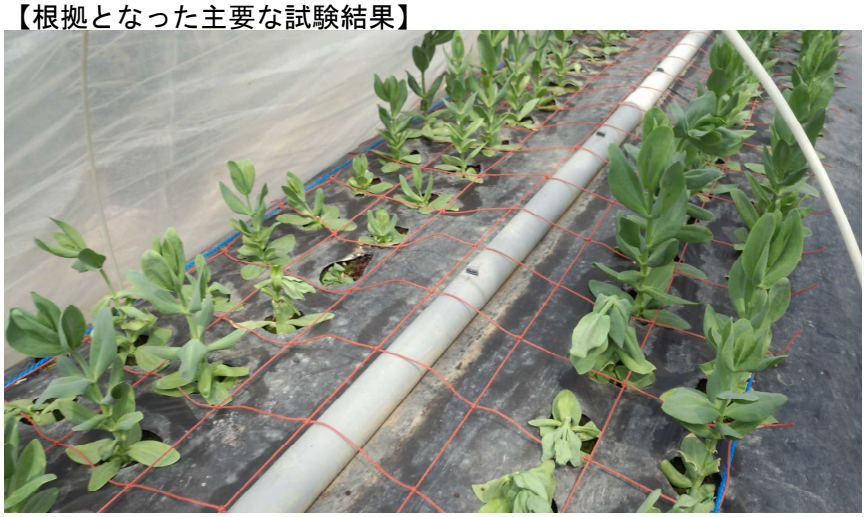

写真１　トルコギキョウ根腐病発生圃場（平成27年4月14日）

写真２　トルコギキョウ根腐病発生圃場（平成27年5月12日）

写真３　トルコギキョウ根腐病罹病株（平成27年4月16日）

健 全 株　　罹 病 株

写真４　接種によるトルコギキョウ根腐病の発病（平成27年5月4日）

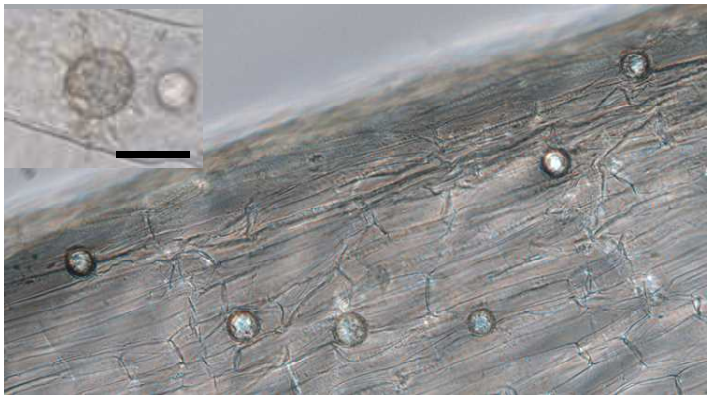

写真５　発病株の根にみられる卵胞子（平成27年5月13日、左上拡大図のバーは20μm）